



現代文・知識

1

次の各設問に答えよ。

問一 次の傍線部の漢字をひらがなに直しなさい。

- 基本 (1) 不祥事で大臣が更迭される。
- 基本 (2) 多くの弔問客が訪れた。
- 基本 (3) 彼女はある財閥の一人娘だ。
- 基本 (4) 有名な小説家の死を悼む。

問二 次の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- 基本 (1) オゴソかに儀式が執り行われる。
- 基本 (2) 次の日はフブキだった。
- 基本 (3) 暑さで体力をシヨウモウする。
- 基本 (4) のんびりしているヨユウはない。

問三 次の□にあてはまる漢字を書き入れ、それぞれ四字熟語を完成させなさい。

- 基本 (1) 旧 □ 依然
- 基本 (2) 意気 □ 々
- 基本 (3) □ 葉末節

正解数をチェックしよう。

応用	標準	基本
5問	10問	18問

2

次の文芸用語の意味として最も適当なものを、後の①～⑫のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

- | | | | | | |
|---------|---------|--------|--------|--------|--------|
| 応用 (11) | 標準 (9) | 標準 (7) | 標準 (5) | 基本 (3) | 基本 (1) |
| 心象 | 浪漫主義 | 表白 | 風雅 | イニシアチブ | 無常 |
| () | () | () | () | () | () |
| 応用 (12) | 応用 (10) | 標準 (8) | 標準 (6) | 基本 (4) | 基本 (2) |
| 余韻 | リリズム | 写実主義 | 月並み | モチーフ | ナルシズム |
| () | () | () | () | () | () |

- ① 言外にあるおもむき。
- ② 叙情性。自分の感情を述べること。
- ③ 現実そのままを主観を加えずに描く考え方。
- ④ 目新しさがなく、平凡であること。
- ⑤ 詩歌・文章・芸術一般などの道。
- ⑥ 物事を率先して行うこと。
- ⑦ 自己愛。
- ⑧ あらゆるものは必ず減び、常住不変なものはないという考え。
- ⑨ 創作活動の動機や主題。
- ⑩ 考えや気持ちをはつきりと文章に表すこと。
- ⑪ 高いもの、はるかなもの、美しいものに対するあこがれの気持ちを重ねる立場。
- ⑫ 記憶、感覚がもとになり、心の中に描き出されるイメージ。

3

次の意味にあてはまる慣用句を、後の空欄を埋めて完成させよ。
ただし、空欄一マスにつき一字とする。また（ ）内の指示に従い、ひらがなもしくは漢字で埋めること。



基本

(1) 痛快な気持ちを声に出して言う様子。

快哉を

ぶ (漢字)



基本

(2) 目上の人の激しい怒りをかってしまう様子。

逆鱗に

れる (漢字)



基本

(3) からいばりをして平気を装う様子。

を張る (漢字)



標準

(4) 過度にももの惜しみする。

爪に

をとます (漢字)



標準

(5) 心の底から深く静かに感動・共鳴する様子。

線に触れる (漢字)



標準

(6) どちらをとつても差し障りがある、一方に決めかねている様子。

し痒し (漢字)



標準

(7) 悲しくなったり、嬉しくなったりすること。

悲

交々 (漢字)



標準

(8) 腹を立てる様子。

満面

を注ぐ (漢字)



応用

(9) 人の頼みなどを冷たく拒絶する様子。

けんも

(ひらがな)



応用

(10) 心配がなくなつて、ほっと安心する様子。

愁眉を

く (漢字)



古文・知識

応用	標準	基本
11問	17問	2問

正解数をチェックしよう。

1

次の和歌の中の傍線部の修辞法（表現技巧）として最も適當なものを、後の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

基本 (1) ひさかたの光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ () ()

標準 (2) 大江山いく野の道の遠ければまだふみも見ず天の橋立 () ()

標準 (3) 駿河なる宇津の山べのうつつにも夢にも人にあはぬなりけり () ()

- ① 枕詞 ② 序詞 ③ 掛詞 ④ 本歌取り ⑤ 折句

2 次の和歌の空欄にあてはまる枕詞として最も適當なものを、後の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

標準 (1) □ 山鳥の尾のしだり尾のながし夜をひとりかも寝む () ()

- ① みづとりの ② ひさかたの ③ たちねの ④ ぬばたまの ⑤ あしひきの

応用 (2) 家であれば筈に盛る飯を □ 旅にしあれば権の葉に盛る () ()

- ① あしひきの ② たちねの ③ くさまくら ④ ぬばたまの ⑤ ひさかたの

応用 (3) いとせめて恋しき時は □ 夜の衣をかへしてぞ着る () ()

- ① ころも ② ぬばたまの ③ ひさかたの ④ うつそみの ⑤ あしひきの

3

次の傍線部の敬語の説明として最も適當なものを、後の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

標準 (1) 右中将おはして物語したまふ。 () ()

標準 (2) 花の散りはべりしを悲しむなり。 () ()

標準 (3) 大殿ごもらで夜を明かしたまふ。 () ()

標準 (4) この内侍帰り参りて、この由を奏す。 () ()

応用 (5) いかなる所にかこの木はさぶらひけむ。 () ()

- ① 尊敬の動詞 ② 尊敬の補助動詞 ③ 謙讓の動詞
④ 謙讓の補助動詞 ⑤ 丁寧の動詞 ⑥ 丁寧の補助動詞

4

次の文の傍線部の現代語訳として最も適當なものを、後の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

基本 (1) むかし、惟喬の親王と申す親王おはしませり。 () ()

- ① お仕えしていた ② いました ③ お呼びになった



標準 (2) いと心憂きこととおぼすなりけり。()

- ④ おつしやつた ⑤ いらつしやつた

- ① おつしやつたそうだ ② お思いになったのだった
 ③ お思い出しになった ④ 思ったのでした
 ⑤ 申し上げたのでした



標準 (3) これを聞きて、かぐや姫すこしあはれとおぼしけり。()

- ① お疑いになった ② お泣きになった ③ お悲しみになった
 ④ お思いになった ⑤ 同情なさつた



標準 (4) 何をか奉らむ。まめまめしきものはまさなかりなむ。()

- ① 申し上げよう ② おつしやるのだろう ③ 食べましよう
 ④ くださるのだろう ⑤ 差し上げよう



標準 (5) はや帰りて、おほやけにこの由を奏せよ。()

- ① さしあげなさい ② 申し上げなさい ③ 言いなさい
 ④ お伝えください ⑤ おつしやつてください



応用 (6) さがなき童どものつかまつりける、奇怪に候ふことなり。()

- ① ごぞいます ② 思います ③ いらつしやる



応用 (7) 北山になむ、ながし寺といふ所に、かしこき行ひ人はべる。()

- ④ なさいます ⑤ お思いになる

- ① お仕える ② います ③ 行きます
 ④ いらつしやる ⑤ お参りする

5

次のA群・B群の傍線部の敬語のうち、他と異なるものを、後の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。



標準 A群 ① 少しあはれとおぼしけり。()

- ② 皇子は旅の姿ながらおはしたり。
 ③ あやしきことをのみぞのたまひける。
 ④ 宮へもいそぎ参らむとす。
 ⑤ 矢をふたつたまひにけり。



応用 B群 ① いかでか尋ね会ひまゐらせさうらふべき。()

- ② 竹の中より見つけきこえたり。
 ③ 知りたまはずは、教へたてまつらむ。
 ④ ある時思ひ立ちてただひとり徒歩よりまうでけり。
 ⑤ その人ならば苦しがるまじ。入れ申せ。

6

次の各文の傍線部の意味として最も適当なものを、後の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

標準 (1) わづかに二つの矢、師の前にて一つをおろかにせんと思はんや。

- ① 急いで
- ② 乱暴に
- ③ 見事に
- ④ いいかげんに
- ⑤ ぼんやりと

標準 (2) この人の宮仕えの本意必ず遂げさせたまつれ。

- ① 祈り
- ② 機会
- ③ お祝い
- ④ もとからの望み
- ⑤ ごちそうの準備

標準 (3) 独りのみながむるよりは女郎花わが住む宿に植ゑて見ましを

- ① もの思いにふける
- ② 遠くを見わたす
- ③ 和歌を詠む
- ④ 嘆く
- ⑤ 楽しむ

標準 (4) この酒をひとりたうべんがさうさうしければ申しつるなり。

- ① もの足りない
- ② みつともない
- ③ 騒がしい
- ④ 惜しい
- ⑤ 腹立たしい

標準 (5) 簀子、透垣のたよりをかしく、うちある調度も昔おぼえてやす

らかなるこそ、心にくしと見ゆれ。

() ()

- ① みつともない
- ② わずらわしい
- ③ 奥ゆかしい
- ④ 美しい
- ⑤ にくらしい

応用 (6) ひたぶるの世捨て人はなかなかあらまほしきかたもありなん。

- ① ひじょうに
- ② かえって
- ③ かなり
- ④ さすがに
- ⑤ 少しは

応用 (7) 宋朝の人、いみじき成敗とぞあまねくほめののしりける。

- ① 大いに非難した
- ② さかんに評判にした
- ③ かえって乱暴した
- ④ すぐさま喜んだ
- ⑤ つくつくうらやんだ

応用 (8) さしたることなくて人のがり行くはよからぬことなり。

- ① 人のもとへ
- ② 人の職場へ
- ③ 人の墓へ
- ④ 人と一緒に
- ⑤ 人について

応用 (9) 一の人の御有様はさらなり、ただ人も舍人などたまはるきはは

- ① 不吉だ
- ② 趣がある
- ③ 分別がある
- ④ すばらしい
- ⑤ 大切だ

応用 (10) よき人はひとへに好けるさまにも見えず、興ずるさまもなほざ

- ① りつぱである
- ② 上品である
- ③ あっさりしている
- ④ おもしろみがない
- ⑤ 美しい



古文・読解

正解数をチェックしよう

◎ 基本	1問
▲ 標準	3問
◎ 応用	4問

次の文章は『浜松中納言物語』の一節で、主人公の中納言が唐に渡り、やがて帰国して帝と対面した場面である。これを読んで、後の各問い(問一～六)に答えよ。

御前に召しありてまゐり給へるに、年ごろ隔てて御覧ずるは、あさましうこの世のものならず。御目もおどろきて、とばかりものもおほせられで、涙おとさせ給へる御気色、かたじけなきに、我もえ心強からず。かの国にありけん事どもなど、くはしく問はせ給ふに、御前をとみに立ち出づべうもあらず。暮れぬるに、雪もなほ降りまざりつつ、月いとおもしろう澄みのぼりたり。

「遊びなどもすさまじうおぼえて、殊にもの音なども聞かでないすこしつるに」とて、御遊び始まる。中納言はこの世の事どもめづらしうおぼされて、見し世の春に似たりしほどなど、事につけつといみじうおぼさるれば、心澄ましてかき立て給へる箏の琴の音、おもしろうあはれなる事かぎりなし。例の事なれば、涙とどむる人なかりけり。御衣給はり給ふ、常の事なりかし。

別れては雲井の月もくもりつつ

かばかり澄めるかげも見ざりき

と仰せ言あるに、いとなめてならぬ事なれば、かたじけなうおぼす。

ふるさとのかたみぞかしと天の原
ふりさげ月を見しぞかなしき
奏し給ひて、下り給ふままに舞踏し給ふ。

- (注) 1 例の事なれば——上手なのは例のとおりなので。
2 なめてならぬ事なれば——並々ならぬ事なので。
3 下り給ふままに舞踏し給ふ——王座の前からお下りになってすぐに拜舞の礼をなさる。

傍線部A「年ごろ隔てて御覧ずるは」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 帝が年齢の隔たった中納言をごらんになった印象は
- ② 帝が数年ぶりに中納言にお会いになったご様子は
- ③ 中納言が久しぶりに帝に対面なさった感動は
- ④ 中納言が世代を超えて帝とお話しになる有様は
- ⑤ 中納言が長年ご無沙汰していた帝にお会いした理由は

傍線部B「我もえ心強からず」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 帝は気が弱く、涙をこらえることがおできにならなかった。
- ② 帝もあまり強引にご命令になることもできなかつた。
- ③ 帝は中納言が傍らにいたので、とても心強く思われた。

- ④ 中納言は自分は決して気の強い男ではないと思った。
 ⑤ 中納言も我慢しきれずに、涙を落とした。

問三 波線部㊦「くはしく問はせ給ふに」、㊧「奏し給ひて」の主語

として最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

標準 ㊦ () 標準 ㊧ ()

- ① 語り手 ② 帝 ③ 中納言
 ④ 人 ⑤ 女房

問四 二重傍線部㊱「この世」、㊲「見し世」が表すものとして最も

適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

応用 ㊱ () 標準 ㊲ ()

- ① 御遊び ② 現世げんせ ③ 前世ぜいせ
 ④ 日本 ⑤ 唐土

傍線部Cの和歌の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① あなたと別れた後は、宮中で見る大空の月も涙でくもって、
 これほど澄んだ光も見なかった。
 ② あなたと別れた後は、宮中で見る大空の月も雲で隠されてばかりで、
 これほど澄んだ姿も見なかった。

応用 問六

- ③ あなたと別れた後は、一面の雲におおわれた月がすっかり澄みきって、かげりひとつなかった。
 ④ 帝とお別れし唐土に渡ってからは、雲間の月もいつそう雲におおわれて、これほど澄んだ姿は見なかった。
 ⑤ 帝とお別れし唐土に渡ってからは、大空の月も涙でくもって、これほど澄んだ光は見なかった。

Aさんは破線部について、「中納言は唐にいる間、管弦の遊びを熱心に覚えて、様々な音楽も聴いて過ごしてきたので」という誤った解釈をした。この解釈を訂正した発言のうち、誤っているものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 「すさまじう」の意味は「熱心に」ではなく「興ざめだ」だと思います。
 ② 「おぼえて」は、現代語とは違い「思われる」と解釈するべきです。
 ③ 「で」は打消の意味なので、「聴かないで」が正しいです。
 ④ 「すぐしつるに」の「すぐす」は「生計を立てる」と解釈するべきです。
 ⑤ 破線部の主語は中納言ではなく、帝だと思います。



漢文・知識

正解数をチェックしよう。

標準 △	基本 ◎
10問	2問

1

次の漢文に返り点を付けたものとして最も適當なものを、後の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。なお、指示してある書き下し文を参考にすること。

基本 (1) 「国人に田成子を内れざるを謀る者有るを聞く。」 ()

聞国人有謀不内田成子者矣。

- ① 聞_三国人有_レ謀_レ不_レ内_二田成子_一者_一矣。
- ② 聞_五国人有_四謀_レ不_レ内_二田成子_二者_三矣。
- ③ 聞_五国人有_三謀_レ不_レ内_二田成子_一者_四矣。
- ④ 聞_上国人有_中謀_レ不_レ内_二田成子_下者_一矣。
- ⑤ 聞_下国人有_中謀_レ不_レ内_二田成子_上者_一矣。

標準 (2) 「吾が賦を復するの不幸の甚だしきに若かざるなり。」 ()

不若復吾賦不幸之甚也。

- ① 不_レ若_下復_二吾賦_一不幸之甚_上也。
- ② 不_三若_二復_二吾賦_一不幸之甚_上也。
- ③ 不_レ若_乙復_下吾賦_上不幸之甚_甲也。
- ④ 不_レ若_中復_二吾賦_一不幸之甚_上也。
- ⑤ 不_レ若_下復_上吾賦_上不幸之甚_上也。

標準 (3) 「児孫の為に美田を買はず。」 ()

不為児孫買美田。

- ① 不_三為_二児孫_一買_二美田_一。
- ② 不_一為_二児孫_一買_二美田_三。
- ③ 不_五為_二児孫_一買_四美田_三。
- ④ 不_下為_二児孫_一買_中美田_上。
- ⑤ 不_上為_二児孫_一買_中美田_下。

標準 (4) 「悪の小なるを以て之を為す勿かれ。」 ()

勿以悪小為之。

- ① 勿_五以_二悪小_一為_三之_二。
- ② 勿_下以_二悪小_一為_レ之_上。
- ③ 勿_二以_二悪小_一為_レ之_二。
- ④ 勿_下以_二悪小_一為_レ之_上。
- ⑤ 勿_二以_二悪小_一為_レ之_一。

2

次の漢文の書き下し文として最も適當なものを、後の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

標準 (1) 何_ソ可_三一日_{トシテ}無_二名君_{カル}邪。 ()

- ① 何ぞ一日として名君なかる可けんか。
- ② 何ぞ一日として名君無かるべけんや。
- ③ 何ぞ一日として名君無かる可けんや。
- ④ 何ぞ一日として名君なかるべけんか。
- ⑤ 何ぞ一日として名君無かる可けんか。

標準 (2) 不知_レ老将_レ至。 ()

標準 (6)

遣_レ人捕_レ之。

()

- ① わがたみのごとくするはなんぞや。
- ② わがたみにしくはなし。
- ③ わがたみのごときはいかん。
- ④ わがたみをいかんせん。
- ⑤ わがたみをなんするものぞ。

標準 (5)

次の漢文は「我が国の人民をどうしたらよいか。」という意味である。これをひらがなだけで書き下し文にしたものとして、最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。

如_二吾民_一何。

()

- ① 何ぞ未だ知る可からざる也。
- ② なんぞいまだ知る可から未る也。
- ③ 何ぞいまだ知るべから未らんや。
- ④ なんぞいまだ知るべからざるなり。
- ⑤ 何ぞ未だ知るべからざらんや。

標準 (4)

何未_レ可_レ知也。

()

- ① 何ぞ未だ知る可からざる也。
- ② なんぞいまだ知る可から未る也。
- ③ 安くんぞ樂しまざるべけんや。
- ④ いづくんぞ樂しまざるべけんや。
- ⑤ いづくんぞ樂しまざる可けんか。

標準 (3)

安_{クシ}可_{ケル}不_レ樂_シ乎。

()

- ① 老いのまさに至らんとするを知らず。
- ② 老いのまさに至らんとするを知ら不。
- ③ 老いの將に至らんとするを知らず。
- ④ 老いの將に至らんとするを知ら不。
- ⑤ 老いの將に至るを知らざらんとす。

応用 (9)

有上書請去佞臣者。

()

- ① 上書有りて佞臣者を去り請ふ。
- ② 上書有りて請ひて去ること佞臣なる者なり。
- ③ 上書して請ふこと有りて去る佞臣者なり。
- ④ 上書して佞臣を去らんと請ふ者有り。
- ⑤ 上書して請ひて去ること佞臣なる者有り。

応用 (8)

安_{クシ}可_{ケル}不_レ以_テ為_サ善_ト乎。

()

- ① 襄公、弟無知の為に弑する所と為す。
- ② 襄公、弟無知を弑する所と為す。
- ③ 襄公、弟無知の弑する所なり。
- ④ 襄公、弟無知を弑せしめたり。
- ⑤ 襄公、弟無知の弑する所と為る。

応用 (7)

襄公、為_二弟無知_一所弑。

()

- ① 人を遣はして之に捕らへらる。
- ② 人を遣はして之を捕らへしむ。
- ③ 人に遣ひして之を捕らふ。
- ④ 人に遣ひして之を捕らへんや。
- ⑤ 人に遣ひせられて之を捕らふ。

*無知：襄公の弟の名。

3

次の漢文の意味として最も適当なものを、後の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

標準 (1) 民無^{クシバ}信不^レ立^ト。()

標準 (2) 豈^ア有^{ラシテ}以^テ忠信^ヲ而得^ル罪^者乎。()

- ① 民に信の心がなければ（国は）成り立っていない。
- ② 民に信の心がなくなったので（国は）成り立たなくなった。
- ③ 民に信の心がなくなると（国は）成り立たないのだろうか。
- ④ 民に信の心がなくなるとさらに（国も）成り立たなくなった。
- ⑤ 民に信の心がなくない状態は（国が）成り立たないのと同じである。

標準 (3) 後^{おくれ}則^{レバ}為^ル人^ノ所^ト制^{スル}。()

- ① 遅れをとると、他人から押さえつけられてしまう。
- ② 遅れまいとすると、他人から押さえつけられてしまう。
- ③ 遅い方が、あとで人を押さえつけることができる。
- ④ 人より遅れても、あとから仕返しをすればよい。
- ⑤ 人を遅らせると、人から仕返しをされてしまう。

標準 (4) 襄公^{じやうこう}、為^シ弟^ノ無^レ知^ル所^ト弑^ス。()

- ① 襄公は弟無知に人を殺させた。

4

- ② 襄公は弟無知に殺された。
- ③ 襄公は弟無知のために人を殺した。
- ④ 襄公は弟無知が人に殺されたのを知った。
- ⑤ 襄公は弟無知を人に殺させた。

標準 (1) 次の文は「これが先漢（前漢）が采えた理由である。」という意味である。

傍線部の読み方として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。
此^レ先^漢所^ニ以^テ興^隆也^也。()

- ① いはゆる
- ② ところをもつて
- ③ もちひるところ
- ④ ゆゑん
- ⑤ おもへらく

標準 (2) 次の漢文の傍線部の読み方として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。

自^レ是^レ数^年之^後、路^ノ不^レ拾^ハ遺^ト。()

- ① みづから
- ② おのづから
- ③ より
- ④ から
- ⑤ まで

標準 (3) 次の漢文の傍線部の読み方として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。

忽^レ聞^ク岸^ノ上^ノ踏^キ歌^ノ声^ノ。()

- ① たちまち
- ② そぞろに
- ③ にはかに
- ④ すでに
- ⑤ すなはち

標準 (4) 次の漢文の傍線部の読み方として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。

治^メ人^ノ事^ヲ天^ノ莫^シ若^シ畜^ト。()

*畜…ものおしりする



応用

(5)

次の漢文の傍線部の読み方として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。

不_レ勝_二感嘆_一。

- ① もし ② ごときは ③ しくは ④ しか ⑤ わかきは
- ① かつぞ ② およばず ③ まさらず ④ たへず ⑤ あげず



基本

(1)

次の詩句で用いられている「故人」の意味として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。

西_ノ出_{ツレバ}陽関_ヲ無_ニ故人_一。

- ① 老人 ② 死んだ友人 ③ 古くからの友人
- ④ 親戚の人 ⑤ 旅行者



応用

(2)

「君子」の対義語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 小人 ② 人民 ③ 君主 ④ 弟子 ⑤ 労働者



応用

(3)

「百姓」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 大勢の人 ② 農民 ③ 百人 ④ 人民 ⑤ 貴族



応用

(1)

次の漢文の傍線部の説明として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。

夫子_ノ至_ニ於_レ是_ノ邦_ニ也_、必_ズ聞_ニ其_ノ政_一。

- ① 「ふうし」と読んで父と子のこと。 ② 「ふうし」と読んで夫婦のこと。



応用

(2)

次の漢文の傍線部の説明として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。

寡人_ヲ布_レ令_ヲ曰_ク、「言_レ歸_者死_{セシム}。」

- ③ 「そのし」と読んで国王のこと。 ④ 「ふうし」と読んで先生のこと。
- ⑤ 「ふうこ」と読んで皇太子のこと。
- ① 「かじん」と読んで諸侯の自称。 ② 「かじん」と読んで君子の自称。
- ③ 「かじん」と読んで静かな人物のこと。 ④ 「かひと」と読んで寡国の国民のこと。
- ⑤ 「かひと」と読んで夫婦のこと。



標準

(1)

「苦勞して学問を成就する。」という意味の故事成語として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 孟母三遷 ② 臥薪嘗胆 ③ 鶏口牛後
- ④ 蚩雪之功 ⑤ 才氣煥発



標準

(2)

「物事を途中で放棄してはならない。」という教訓をもつ故事成語として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 五十歩百歩 ② 孟母断機 ③ 朝三暮四
- ④ 朝令暮改 ⑤ 羊頭狗肉



応用

(3)

「立派な人は過ちをすぐ改める。」という意味の四字熟語として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 君子豹変 ② 以心伝心 ③ 朝令暮改
- ④ 才氣煥発 ⑤ 電光石火